令和５年度事業報告

１　法人の概要

１）沿革

昭和１５年	１２月２８日	財団法人村上学園設置認可
１６年	４月　１日	布施高等女学校開校
２２年	４月　１日	布施高等女学校附属中学校開校
２３年	４月　１日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
２４年	２月１５日	布施女子高等学校、同中学校と改称
２６年	３月１３日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
２８年	４月２２日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
３８年	４月　１日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
３９年	１月２５日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
４０年	１月２５日	布施女子短期大学（４２年４月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
４１年	１月２５日	布施女子短期大学保育科を増設
４３年	４月　１日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
４４年	４月　１日	保育科を幼児教育学科に改称（４７年３月廃止）
４５年	２月　９日	児童教育学科設置認可を得、同年４月１日開設
４５年	４月　１日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
４８年	４月　１日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
６３年	３月３１日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成１１年	７月２８日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
１２年	３月　１日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年４月１日開設
１３年	３月３１日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
１３年	５月１５日	校名変更認可、平成１４年４月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
１４年	４月　１日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
１４年	１２月１９日	東大阪大学設置認可、平成１５年４月１日開学 校名変更認可、平成１５年４月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
１５年	１月２４日	校名変更認可、平成１５年４月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
１５年	４月　１日	東大阪大学こども学部こども学科開学
１８年	４月　１日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更

家政学科生活デザイン専攻を平成１８年度より募集停止
１９年　３月３１日　家政学科生活デザイン専攻廃止届出
２２年　３月３１日　東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
２２年　４月　１日　健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
健康栄養学科生活福祉専攻を平成２２年度より募集停止
２３年　３月３１日　健康栄養学科生活福祉専攻廃止
２３年　４月　１日　東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
２８年　４月　１日　東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
３０年　４月　１日　東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和　３年　４月　１日　東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

２）設置する学校・学部・学科（令和５年度）

（１）東大阪大学　こども学部　　こども学科
国際教養こども学科
（２）東大阪大学短期大学部　　実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
（３）東大阪大学敬愛高等学校　　普通科（全日制課程）
（４）東大阪大学柏原高等学校　　普通科（全日制課程）
（５）東大阪大学附属幼稚園

３）当該学校・学部・学科の学生数（令和５年５月１日現在）

学　校　名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	３２１
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	８８
	実践保育学科	７１
	介護福祉学科	１０８
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	６９４
東大阪大学柏原高等学校	普通科	４８２
東大阪大学附属幼稚園		２９０
合計		２，０５４

４）役員の概要（令和６年４月１日現在）

（１）役員　　理事　７人、監事　２人（任期：令和７年７月３日【7-1-1 除く】）

寄附行為	役職名	氏名
７－１－２	理事長	村上　靖平
７－１－２	理　事	栗岡二三子
７－１－３	理　事	佐伯　　勇
７－１－３	理　事	筒井　宣興
７－１－１	理　事	吉岡眞知子
７－１－２	理　事	金治　延幸
７－１－３	理　事	別所諭貴夫
８	監　事	中道　　均
８	監　事	室井　博子

（２）評議員　　１５人（任期：令和７年７月３日）

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
２１－１－２	栗岡二三子	２１－１－１	山田ゆかり
２１－１－１	村上　靖平	２１－１－１	森内　　徹
２１－１－３	妻野　京子	２１－１－１	出口　和隆
２１－１－３	吉岡眞知子	２１－１－１	新　　浩幸
２１－１－３	別所諭貴夫	２１－１－１	小林　康行
２１－１－３	西田　眞男	２１－１－１	南方　孝一
２１－１－３	金治　延幸	２１－１－３	宮里　円香
２１－１－３	三浦　常治		

５）教職員の概要（令和５年５月１日現在）

	教 員		職 員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	０	０	１２	４	１６
東大阪大学	２２	２４	１６	１０	７２
東大阪大学短期大学部	３１	３４	１５	３	８３
東大阪大学敬愛高等学校	４５	１３	７	７	７２
東大阪大学柏原高等学校	４９	７	９	１１	７６
東大阪大学附属幼稚園	１８	５	６	２	３１
合　計	１６５	８３	６５	３７	３５０

２　財務の概要

１）事業活動収支計算書（令和３年度から令和５年度）　（単位：千円）

（教育活動収入の部）	令和５年度	令和４年度	令和３年度
学生生徒等納付金	1,372,140	1,402,731	1,430,546
手数料	27,669	27,922	30,344
寄付金	15,543	22,061	16,308
経常費等補助金	800,860	813,968	781,869
付随事業収入	98,401	118,739	99,980
雑収入	72,253	49,758	32,870
教育活動収入計	2,386,866	2,435,180	2,391,916
（教育活動支出の部）			
人件費	1,499,017	1,546,107	1,487,039
教育研究経費	914,229	948,685	1,006,385
管理経費	414,394	431,251	385,609
徴収不能額等	7,200	5,726	2,539
教育活動支出計	2,834,840	2,931,770	2,881,572
教育活動収支差額	△447，974	△496,590	△489,656
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	17,878	49,917	46,408
その他の教育活動外収入	-	-	-
教育活動外収入計	17,878	49,917	46,408
（教育活動外支出）			
借入金利息	21,825	21,121	22,712
その他の教育活動外支出	-	-	-
教育活動外支出計	21,825	21,121	22,712
教育活動外収支差額	△3,945	28,797	23,696
経常収支差額	△451,920	△467,794	△465,959
（特別収入）			
資産売却差額	20	987	-
その他の特別収入	61,026	3,325	4,738
特別収入計	61,046	4,313	4,738
（特別支出）			
資産処分差額	221	732	311
その他の特別支出	2,744	703	113

特別支出計	2,965	424	37,640
特別収支差額	58,081	4,314	60,288
基本金組入前当年度収支差額	△393,840	△461,646	△133,415
基本金組入額合計	△299,271	△212,095	△428,518
当年度収支差額	△758,400	△673,741	△561,933
前年度繰越収支差額	△5,789,081	△4,475,963	△3,914,030
基本金取崩額	-	-	-
翌年度繰越収支差額	△6,547,481	△5,149,704	△4,475,963
事業活動収入計	2,465,790	2,443,062	2,629,000
事業活動支出計	2,859,630	2,904,708	2,762,415

２）貸借対照表（令和３年度から令和５年度）　（単位：千円）

	令和５年度	令和４年度	令和３年度
固定資産	12,224,520	12,448,173	13,043,524
流動資産	339,033	649,742	920,891
資産の部合計	12,563,553	13,097,916	13,964,415
固定負債	1,784,285	1,929,623	2,089,363
流動負債	698,137	693,322	935,164
負債の部合計	2,482,422	2,622,944	3,024,527
基本金の部合計	16,628,613	16,264,052	16,089,592
繰越収支差額の部合計	△6,547,481	△5,789,081	△5,149,704
負債及び純資産の部合計	12,563,553	13,097,916	13,964,415

３）財務比率（令和３年度から令和５年度）　（単位：％）

	令和５年度	令和４年度	令和３年度
人件費比率	62.3	62.2	61.0
人件費依存率	109.2	110.2	103.9
教育研究経費比率	38.0	38.2	41.3
事業活動収支差額比率	△16.0	△18.7	△18.9

２　令和５年度事業計画における進捗状況等

Ⅰ　教育内容の充実

イ）教科指導（ICT 教育の充実）

・年度当初に、各教科より「教科目標」を提出、年間を通して目標達成に向けての取り組みにより「各教科でつけさせたい力」が明確になり統一した指導につながった。

・タブレット端末、プロジェクターは Classi・MetaMoji 等のアプリを授業で活用。
また、パフォーマンス課題、小テストでも活用し効果が出ている。

・新学習指導要領における「観点別学習状況の評価」

※生徒の主体的な学びに対する意識が芽生えてきている、また、パフォーマンス課題等を通じて学んだことを、どのように活用するかが理解できてきている。

※調べ学習や発表を通じて協力して課題に向かう姿勢が見られるようになっている。

※各教科での単元ごとの小テスト実施により、学習に対する姿勢が向上している。

※中間考査を無くしたことは、授業時数の確保に有効であった。

・毎週の「小テスト」と学期ごとの「基礎力診断テスト」について

※朝、週 3 回実施している小テストで合格できなかった生徒への再テストを実施したことで、基礎力診断テスト成績も徐々に上がり成果が出てきている。今後も継続する。

・これまでの「基礎力診断テスト」の成果を考え、来年度からは 3 年生は「実力診断テスト」を実施し進学への意識付けを強めたい。

ハ）学級経営（担任の取組）

・タブレット端末（Classi）を利用し、生徒個人の振り返りを学級単位で実施することで、担任と生徒との情報共有ができた。

・日々の学習記録は効果的ではあったが、より効果が期待できるポートフォリオに変更する。

ニ）保健室来室・生徒相談件数

・保健室来室

※来室者数は昨年度よりも増加傾向。気持ちの不調が身体症状に現れる生徒の利用が増加。

※今年度はインフルエンザによる学級閉鎖を４回実施。流行時には、発熱・風邪症状で来室者・早退対応が増加した。症状がある際には無理して登校しないこと、マスクや手洗い等の予防に努めるよう指導した。

※保健室に生徒相談に関連する来室が多くあり、保健室と相談室の棲みわけを検討する。

・生徒相談

※相談件数：24 ケース（1 年 13 件、2 年 6 件、3 年 3 件）

※管理職、学年主任、学級担任、スクールカウンセラー、保健室、相談係で連携し対応。

※今年度は週一回のスクールカウンセラー来校時に、生徒・保護者・教員との面談が実施できたこと、ケース会議で指導を仰げたことは日ごろの指導にも有効であった。

※来年度はカウンセリングを行っていることを生徒・保護者へ周知し、早期に対応できるよう働きかける。

※今後、更なる情報共有と連携、チーム対応の整備を目標に、本人への理解、具体的な対応や、支援の方針について検討し係としての取り組みが必要。

※生徒の居場所作りを目的に、3 学期よりフリースペースの開放を実施。次年度も　修

正を加えながら継続し、不登校予防の支援につなげたい。

Ⅱ　各コースの充実

イ）総合進学コース

〇選択科目「敬愛講座」

・敬愛講座Ａ「アカデミック探究」「スポーツ探究」敬愛講座Ｂ「トライアル探究」「キャリア探究」を実施し、それぞれの探究学習から主体的に学習できる足がかりができている。

・敬愛講座Ａと敬愛講座Ｂのそれぞれからの選択となっているが、選択に悩む生徒が多いこと、選択により少人数となり、不開講となるケースが多くあることなどから、今後の検討が必要。

〇コース行事

・SDGｓ探究プログラムや職業体験・SDGｓの内容を通してボランティア活動・体験教室な各学年で実施。SDGｓへの関心が高まり、体験からは豊かな感受性と創造性を養うことができた。

ロ）こども教育コース

〇こども研究科目

・２学年で「保育技術検定」の検定試験を実施。2 年生では造形表現の 2 級に合格する生徒もおり、意欲的に取り組む生徒が非常に多く有効であった。

・３年生のレクリエーション実習の授業では、今年度は５人の資格申請者があった。

〇コース行事

・幼稚園実習

※非常に充実した実習が実施できた。特に 2 年生は園からの評価も高かった

・「キッズイングリッシュ」

※発表については、2 年生は観点別評価になり、授業のあり方の変更により、3 学期に発表練習の時間をつくることができず、不実施となった。来年度もキッズイングリッシュの発表は 3 年生のみでの実施とする。

・ピアノレッスンについて

※今年は希望者が非常に多く、講師の先生の手配、レッスン時間の調整が非常に困難であった。今年度も東大阪大学短期大学部に依頼した。

また、担当者の提案で、グランドピアノでのリハーサルを実施した。その結果、生徒の意識が高まり、非常にすばらしい発表会をすることができた。例年に比べて、欠席する生徒がほとんどなく、講師の先生からの評価も非常に高かった。

ハ）調理製菓コース

〇高大連携授業について

・例年通り実施。進路について考える機会となるので可能な限り実施し、内部進学を増やせるよう取り組んだ。

〇コース行事

・商品開発

※今年度も大阪調理製菓専門学校とコラボし新しいお菓子を開発（希望者を募り、土曜授業の放課後に試作）し花園エキスポにて販売を実施した。結果は非常に好評であっ

た。新たな敬愛の目玉商品を作れるよう次年度も実施していきたい。

・敬愛 Cafe

※今年度は校舎内調理室にて実施。「飲み物を作る→提供する」の流れがスムーズであったが、調理室のテーブルが少なく回転率は悪かった。次年度も調理室で実施する場合は、テイクアウトの充実を検討する。

・感謝の食事会

※新型コロナ感染症が 5 類になり、従来の形式で実施。教員用感謝の食事会では多くの教職員にも感謝が伝わった。料理のクオリティーを上げていくことが課題である。保護者対象の感謝の食事会では１００名以上の保護者が来校され、生徒は保護者に成長を伝えることができ、感動を与えられた食事会となった。３年間の成果を見せる行事として、次年度以降もクオリティーを上げながら実施する。

ニ）ファッション創造コース

〇2 年目のコースでコース担当者・大阪文化服装学院からの外部講師と連携し、試行錯誤を重ね、実施した。

〇カリキュラムについて

・3 名の特別講師の熱心に指導により、特別講師にしか指導ができない知識・技能を生徒たちは身に付けることができた。

・1 単位ずつの「ﾌｧｯｼｮﾝﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞ」と「ﾍｱ＆ﾒｲｸ実習」は時間割変更をし、隔週で 2 コマ連続にするなどの工夫をした。次年度以降も必要に応じて時間割変更で対応する。

〇コース行事

・6/22-23 2F1 コース研修旅行

※通常の授業で学んでいることが活かされ、現場の生の職人さんの声が聞くことができた。また、特殊な服作りに必要な機械が見ることができた。大きな学びとなる旅行であるため、今後も継続する。

※トンボ学生服の本店・工場見学が有効であった。普段の「服飾造形ソーイング」で学んでいる知識が制服の制作工程の中で確認ができていた。

〇村上学園フェスタ（敬愛祭）

・WEGO と連携して計画したスタイリングコンテストは写真展示にむけて、卒業生の協力も得て、村上学園フェスタ（敬愛祭）で実施し、当日のみで 700 票もの投票を回収できた。この取り組みは、卒業生等がファッション創造コースの取り組みを知る良いきっかけとなった。

・KI グランプリでは、初めて花道を導入し、音響・スポットライトも例年とは異なる業者に変更となり、昨年よりもステージの環境がグレードアップして 1F1 のファッションショーが実施できた。

・敬愛祭での発表がファッション創造コースにとっては、最大のコースの取り組みを発表する場であるため、終日衣装着用を認めるなど、今後他コースとの差別化を検討する必要がある。

〇産学連携プロジェクト

・WEGO と年間を通して、古着をテーマに考えることができ、非常に大きな学びの 1 年間になった。WEGO という中高生の年代では誰しもが知る大手アパレルブランドと連携できたのは、年代とマッチして良かった。

・総合的な探究の時間を利用して、衣装ピックアップのために、箕面古着倉庫を訪問した。衣装選びはスムーズに行い、一般客では見られない場所にも入ることができ古着倉庫の現状も知ることができるなど学びが多かった。
・知名度があるブランドとの産学連携で、世間からも注目をされやすい機会であったが、広報が十分ではなかったことなど、今後の検討課題はある。

Ⅲ　生徒会活動の充実

イ）体育祭について　※来場者　４２５名

〇4 年目のラクタブドームでの実施は生徒・保護者ともに好評であった。今年度は 10 月開催のため冷房をつける必要がなくコスト減にもつながった。今後も１０月以降の開催が望ましい。

・SNS でのリアルタイム更新は、当日来場できなかった保護者や中学生にとって様子を知るための良いコンテンツとなったため継続したい。

・体育部のクラブ生や生徒会役員を中心に審判、召集、用具、進行の運営を行った。また今後引き継いでいける生徒を増やすために例年よりも手伝い生徒の数を増やした。
まだ教員のサポートが必要ではあるが、いずれは大部分を生徒が運営できるような体育祭を実施する。

ロ）村上学園フェスタ（敬愛祭）　※来場者　３，９１３名（敬愛２，００１名）

・吉本演芸鑑賞、ＫＩグランプリは生徒の鑑賞態度が良く、演技に賞賛する姿もあり生徒の感想はとても良かった。新しく設営した花道ステージについて賛否はあったが良かったと思われる。今後の使用については各部署やコースの意見を聞き決定したい。

・村上学園合同フェスタは、大きな問題なく無事に終えることができたが、多くの課題が残った。

・次年度は本来の敬愛祭になるが、準備期間を十分にとることが必要であり、１学期中の詳細決定・連絡が望ましい。また、従来の敬愛祭は模擬店中心となっているため内容を検討する。

ハ)クラブ活動について

・今年度も大きな問題なく部活動を運営ができた。練習場所、用具、鍵の管理、クラブハウスの使用など管理の再確認が必要である。また、クラブハウストイレ清掃について、年度初めに体育部で当番を決めているが機能していないときがある。顧問への呼びかけや巡回を実施するなど対策が必要である。

ニ）その他

・クラブ体験、スポーツ大会、愛の募金活動、街頭募金活動、耐寒行事などの行事も生徒会役員が中心となり実施し、各行事有効であった。

Ⅳ　生徒指導の徹底

イ）問題行動の指導案件

・今年度、指導案件数は大幅に減少したが人間関係のトラブル・SNS の投稿など注意すべき点は多くあるため、来年度も引き続き、日ごろからの声掛けや巡回指導など、規範意識向上につながる取り組みを継続する必要がある。

ロ）イエローカードによる指導

・ポイント数は、減少しており、学校全体、各学年の取り組みの成果が現れてきている。しかし、一部の項目で増加傾向が見られるため、もう一度規範意識を持たせる取り組みを行う必要がある。

・学校行事、体育祭・敬愛祭などの行事は、スマートフォン規定を決め、使用を許可したが、大きなトラブルもなく許容範囲内であった。

ハ）交通（自転車通学）

・通学マナーは、立哨時に外部での指導を継続して行った結果、改善傾向にある。その他、今年度は近隣のコンビニエンスストアからの苦情が多くみられた。特に校外行事日の違法駐輪での苦情が多く、来年度は事前に注意喚起が必要である。今後、道路交通法の改正により、車やオートバイと同じように反則金を課す、いわゆる「青切符」による取締りの導入に向けての動きが進んでおり、自転車の取締りは16歳以上に適用され、信号無視など112の違反行為が対象となる。安全のため、改正に向けて、交通法規の周知徹底が必要である。

Ⅴ　進路保障の徹底

イ）進路状況

・令和5年度の進路状況は、進路希望調査・決定状況ともに、進学9割弱、就職1割弱の傾向にある。進路決定の昨年度比は、進学率は87%から88%で、ほぼ同じ状況である。四年制大学進学率は50%と増減なく、短大が14%から12%に減少、専門学校は23%から26%に増加した。特徴として、進学率は、5年前39.3%から昨年度50%超えとなり、大学への進学傾向は高くなっている。短大希望が減少傾向にあり、外部短大への進学は2名であった。専門学校への進学は、将来を見据え、資格取得を考えた受験となっている。

ロ）進学について

・進学指導では、AO入試・総合型選抜、内部推薦・指定校推薦・公募制推薦等を利用して受験し、2学期中に進路を決定することができている。また、次年度以降も年内入試の進路指導を継続する必要がある。R5年度3年生は、早い段階から進学先を決め、総合型選抜での受験で良い結果を出す生徒も多くあり、1年次より進路指導の充実は、今後も重要である。受験先となる大学は、年内入試で定員確保の傾向にあるが、18歳人口の推移は次年度増加するので、R5年度の受験倍率は参考程度として、総合型選抜・公募制推薦における各大学の傾向・多様化した受験方法をしっかり把握する必要がある。今後も生徒たちが希望の大学にチャレンジできる指導体制作りに取り組む。

・内部進学者数は、30名（大学10名・短期大学20名）で、11名の減少となったが、コースの在籍者数を考慮すると、比率的には減少とは言えない。

ハ）就職について

・実業団（陸上部）への就職が3名や、公開求人・縁故の就職先へ、受験準備をしっかり行い、希望者は全て、内定となった。1000社を超える求人票が届きWEB求人も含め、多くの企業が高校生の採用に意欲的で、高卒採用は増加傾向にある。ミスマッチを防ぐ上で、職場見学や説明会への参加等就職指導の充実も今後の課題である。

Ⅵ　入試広報部の充実

イ）募集

・中学校訪問

※各募集担当が約 30～80 校を担当。来年度は近隣校を重点的訪問はもちろんその他の訪問も回数を増やす必要がある。そのなかで入試広報ＰＴからあがっている案を積極的に活用し、他校情報を踏まえて戦略的に募集活動を行っていく。

※堺市や松原市、藤井寺市を訪問エリアに追加したことは一定の成果があった。訪問を継続していく。

※今年度中学校へ訪問した説明会が 3 件・出前授業が 5 件・高校訪問が 1 件とコロナ前の参加に戻ってきた。以前はＣコースの依頼が多かったが、ＥやＦの依頼が急増しており、出前授業の案内を中学校に積極的に行いたい。初めて参加した中学校でも「専３名・併５名」と受験者数が増加。学校を知ってもらう良い機会になるため、来年度はチラシを作成し、配布を検討する。

・塾訪問

※今年度は、塾訪問専属で１名担当。去年に引き続き、コースの説明やチラシの配布などを中心に、年間で５００件以上と数多くの塾に訪問。そのうち新規の塾も開拓中であり、引き続き募集活動を継続し、塾からの入学者増を目指す。

ロ）広報

・SNS・HP

※今年度も生徒会役員に依頼し Instagram のストーリー配信など多くの投稿を行った。有効な広報手段であるため、来年度も在校生の様子や学校行事の楽しさを伝えられるよう継続する。リールでの投稿も増加し、各コースの内容を伝えられた。

・Keiai レター

※今年度も 4 月に全校生徒用の keiai レターを制作し、中学校から高評価を受けている。5 月頃の 1 回目の募集活動の際に、在校生の様子を伝えることやポスターができるまでの掲示物としても必要不可欠であり、来年度も継続する。

・私学展

※今年度 8 月 12・13 日の 2 日間開催。

・相談会、説明会

※外部の相談会には 5 件参加したが、相談件数が少ないものもあった。今年度は、四條畷の 3 中学校の企画や鶴見区ＰＴＡの説明会など、これまでになかった参加依頼があった。今後も説明会には積極的に参加する。

来年度は、「〇〇区内から自転車で△分・具体的な在校生の人数など」掲示することで、学校の知名度向上につなげたい。

ハ）イベント

・オープンスクール

※全 4 回（定員 400 名・午前のみ）昨年度の参加者 1352 名、今年度は 1365 名と微増。回数を 6 回→4 回に減らしたが参加者数は問題なかった。

※生徒主体のプログラムで非常に協力的な生徒が多く、来場者からのアンケートでも生徒への評価は高かった。

※中学生の参加者が 50 名ほど減っている点は気になるが、アンケート結果を見ても SNS の効果や OS の内容への不満はないように思われる。ただ、現状として昨年と大きく

変わらない OS への参加人数でありながら、受験者数が減っており、各コースの特色や充実度が伝わっていない可能性がある。全体会でのコース説明の資料やコース体験の内容変更を検討する。

※配布資料は、今までのアンケートを参考に保護者・中学生の知りたい情報を用意する。

・秋祭り

※開催 2 年目で、昨年よりも企業の誘致（外部 20 団体・内部 8 団体）・集客（在校生 150 名（手伝い生除く）・来場者約 1300 名（卒業生含む））ともに非常によかった。目先の将来だけでなく地域のつながりから、幼稚園・小学校を含め、将来的な進路につながると考え継続していく。

※参加企業の多から「来年もぜひお願いしたい。」という声も多かったが、その　中には改善点もあり検討したい。

・入試説明会

※説明内容をもう少し具体的にしてほしいという意見があった。(実際過去問を使って、部分的な解き方の説明をする等)

※3 教科の教員と具体的な案を検討していく必要がある。

・冬休み受験集中講座

※昨年同様、1 日の開催で内容も各教科分野別にし、中学生の選択制で実施した。参加人数は、145 名

※中学生の評判は非常に良かった。来年度も同じような方法で実施する。

Ⅶ　留学支援部

イ）・令和５年度在籍数(年度末 73 名)

月		0 年	1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	0	4	23	27
4 月	新入	0	3	5	3	11
10 月		4	4	31	0	38
計		4	7	40	26	77
退学		1	1	2	0	4

・令和６年度進級・進級見込み（47 名）

月		0 年	1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	3	6	38	47
4 月	新入	0	未定	未定	未定	未定
10 月		未定	未定	未定	未定	未定
計			3	6	38	47

・本年度の在籍は 77 名（令和 4 年度 68 名）となり、令和元年度以来の増加となった。新型コロナウイルスも落ち着き、現地での募集活動、本校への見学なども再開された。

ロ）生徒指導について

・本年度は入国、入寮時のガイダンスを生徒指導部に依頼し、説明を受けた。その後もルールの周知や、規範意識の向上のための集会を行ったことで、昨年度から指導数は減少した。次年度は更にルールの周知徹底、規範意識の向上、指導数減少を目指す。

ハ）進学指導

・卒業生 26 名中、外部 4 年制大学 25 名（関西大学 1、龍谷大学 1、武蔵野大学 1、東海大学 2 など)、専門学校 1 名となった。内部進学は 0 名。

・本年度も有名私立レベルの進学実績を残すことができた。例年よりも外国語系、芸術系、薬学系など様々な分野を選択する生徒が多くいたが、担任をはじめ、多くの教員の指導を受け、全員合格させることができた。

・次年度は関関同立レベルの複数人合格を目標に、引き続きこのレベル維持を目指す。

ニ）高校入学前教育 R1 クラスの始動

・本年度より、母国中学校 7 月頃に卒業をした生徒を対象に、本校の 1 年生に入学するまでの半年間、入学前準備教育として、日本語授業や各教科の授業を実施した。入国時の生徒の日本語レベルが不明なため、授業内容、進度の決定が難しかった。次年度は、今年度の反省を活かし、授業内容を精査する。

ホ）寮耐震補強工事

・本年度は 7 月～10 月に桃風寮の耐震補強工事及び改装工事が行われた。研修室、寮室、トイレ、洗面場が改装され、寮内は快適な生活環境となった。

ヘ）入国対応

・新型コロナウイルスも終息を迎え、4 月生は予定通りの入国となった。10 月生は入国管理局より日本語学習についての追加書類を求められるなど、審査に時間がかかり、11 月、12 月、1 月の 3 回に分けての入国対応となった。そのため、入国できない生徒のためにオンライン授業を実施し対応した。
次年度は国際交流センターとも協力し、4 月、10 月とスムーズな入国を目指す。

3　財務の概要

別添 令和５年度　　資金収支計算書
事業活動収支計算書
貸借対照表
財産目録
監査報告書　　参照